新聞の父 足跡たどり

播磨町郷土資料館で新聞に関する貴重な展示品を鑑賞する見学者ら

ジョセフ・ヒコ

郷土出身ジョセフ・ヒコ発行

民間初の日本語新聞発見

新聞資料研究会播磨大会 羽島会長が記念講演

県立考古博物館

日本で初めて民間人による邦字新聞を発行した播磨町出身のジョセフ・ヒコ（浜田彦蔵・1837～97年）の足跡をたどる「新聞資料研究会播磨大会」の記念講演会が3日、播磨町大中の兵庫県立考古博物館で開かれた。

ヒコは13歳の時に遠州灘で遭難。米国の商船に救出され、日本人で初めて米国の市民権を得た。1859年の横浜開港とともに帰国。事業家岸田吟香らとともに横浜の居留地で、日本初の民間邦字新聞「新聞誌」を発行した。

播磨町の町制施行50周年記念事業の一環として「新聞の父 ジョセフ・ヒコ展」（神戸新聞社など後援）が、隣接の播磨町郷土資料館で24日まで開かれている。

展示の目玉は、新聞資料研究会の羽島知之会長が2001年に発見した新聞誌の第1号。冒頭に1865（慶応元）年との記載があり、諸説ある創刊年を検証する上で貴重な資料。同時に見つかった第2号や、新聞誌を改題した「海外新聞」の第6号など研究会のメンバーが所蔵している資料をはじめ、1898（明治31）年の神戸新聞創刊号も展示されている。

2日に研究会の総会があり、3日の羽島会長の「『海外新聞』の前身、幻の『新聞誌』を発掘」と題した講演には、約150人が耳を傾けた。

講演する羽島知之会長

熱心に講演を聴く人たち

神戸新聞

発行所
神戸新聞社
神戸市中央区東川崎町
1―5―7
郵便番号 650-8571
神戸新聞ホームページ
http://www.kobe-np.co.jp/

無断で複写・転載することを禁じます

めぐる君
号　外

「神戸新聞　めぐる君」は取材からレイアウト、印刷までを1台でこなす「走る神戸新聞社」です。パソコンやプリンター、発電機などを完備。兵庫県内を駆け巡って、NIE（教育に新聞を）支援や地域のイベント新聞発行、被災時の前線取材基地などとして活躍、その場で新聞を発行します。出動依頼は神戸新聞社読者サポートセンター（TEL078・362・7056）まで。

購読のお申し込み
0120・16・8349